読み方のポイント　古文の読み方

一　**歴史的仮名遣い**　古文の仮名遣いを、今の仮名遣い（現代仮名遣い）に直して読む。

①語の頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」（いふ→いう）　②「ゐ・ゑ・を」→「い・え・お」　③「ぢ・づ」→「じ・ず」　④「くわ・ぐわ」→「か・が」　⑤「アの段＋う（ふ）」→「オの段＋う」（やう→よう）　⑥「エの段＋う（ふ）」→「イの段＋ょう」（けふ→きょう）　⑦「む」→「ん」（行かむ→行かん）

二　**古語の意味**　①**今は使わない語**（いと＝とても、つとめて＝早朝）と、②**今と意味がちがう語**（うつくし＝かわいらしい、ありがたし＝めったにない）がある。②に特に注意する。

三　**主語をおぎなう**　古文では「が」や主語がよく省かれる。だれの動作かは、直前に出てきた人物や、話の流れから考える。人物名のあとに「が」をおぎなって読むとよい。

四　**会話と「と」**　古文には「　」がないことが多い。会話や心の中のことばは、「と」「とて」の直前まで。「言ふ」「思ふやう（思うことには）」のあとから始まることが多い。

五　**教訓**　昔の短い話（説話・寓話（ぐうわ））は、最後に「そのごとく（そのように）」などと、話から引き出した教えを述べることがある。

例題　次の問いに答えなさい。

（1）次の語を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。ア　いはく　イ　まうす　ウ　ゐなか　エ　けふ　（2）古語の「うつくし」の意味を、次から選びなさい。ア　きれいだ　イ　かわいらしい

解き方　（1）ア　語の頭以外の「は」→「わ」。イ「まう」は「アの段（ま）＋う」なので「もう」。ウ「ゐ」→「い」。エ「けふ」は「エの段（け）＋ふ」なので「きょう」。（2）今と意味がちがう語。昔は、小さいものをかわいいと思う気持ちを表した。

答え　（1）ア　いわく　イ　もうす　ウ　いなか　エ　きょう　（2）イ

宿題　次の文章は、『伊曾保物語』の一つの話である。読んで、あとの問いに答えなさい。

ある犬、ししむらをａくはへて川を渡る。真中（まんなか）にてその影水にうつりて、大きに見えければ、我くはゆる所のししむらより大きなると1心得て、これを捨て、2かれを取らんとす。故（ゆえ）に二つながらこれを失ふ。

そのごとく、重欲心（じゅうよくしん）の輩（ともがら）は、他の宝をうらやみ、ことにふれて貪（むさぼ）るほどに、たちまち天罰をｂかうぶり、我持つ所の宝をも失ふ事あり。

（『伊曾保物語』による）

（注）ししむら＝肉のかたまり。　大きなると＝大きいと。　故に＝それで。　二つながら＝二つとも。　重欲心の輩＝欲の深い人たち。　ことにふれて＝何かにつけて。　貪る＝ほしがる。　天罰をかうぶり＝天のばちを受け。　我持つ所の宝＝自分が持っている宝。

問一　ａくはへて、ｂかうぶりを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

a

b

問二　1心得ての主語として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　犬　　イ　川　　ウ　影　　エ　重欲心の輩

問三　2かれとは何を指しているか。最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　犬がくわえていた肉。
イ　水にうつった、肉をくわえた犬の影。
ウ　川の向こう岸にいたほかの犬。
エ　川の中を泳いでいた魚。

問四　この話の教訓を、犬の話に当てはめて説明した次の文の［　　］に入ることばを、十五字以上、二十五字以内で考えて書きなさい。

犬は［　　］ので、自分の持っていた肉まで失ってしまった。欲の深い者は、自分の持っている宝まで失うことがある。

解答（答えと短い解き方）

歴史的仮名遣い 基礎① 古文の読み方と短い話

宿題

問一　a　くわえて　　b　こうぶり

a　語の頭以外の「は」→「わ」、「へ」→「え」。b　「かう」は「アの段（か）＋う」なので「こう」。

問二　ア

話の初めの「ある犬」が、そのあとの「川を渡る」「心得て」「取らんとす」の主語。

問三　イ

犬は、水にうつった自分の影（がくわえている肉）を、もっと大きい肉だと思いこんだ。

問四　（例）影の肉まで欲しがって、くわえていた肉を捨てた

①影の肉まで欲しがったこと、②自分の肉を捨てたこと、の二つ。「我持つ所の宝をも失ふ」にあたる。